

現代ベトナム語における漢越語の研究 (10)

— 2音節漢越語名詞の越化について —

A Study on Chinese Vocabulary in Vietnamese (10):
On the Vietnamization of Two Syllable Sino-Vietnamese Nouns

村上雄太郎 Yutaro Murakami

茨城大学 理工学研究科 共通講座

Basic Education, Graduate School of Science and Engineering, Ibaraki University

今井昭夫 Akio Imai

東京外国語大学総合国際学研究院

Institute of Global Studies, Tokyo University of Foreign Studies

Abstract

It is common knowledge that in a two syllable Sino-Vietnamese word, the modified element is preceded by the modifying element, such as in *ngoại* [foreign] *quốc* [country] (foreign country), *nội* [internal] *thương* [trade] (home trade), etc. However, in Vietnamese there are also some Sino-Vietnamese 2 syllable words in which semantically the modifying element follows the modified element, such as *nội* [inside] *thất* [room] (interior [decoration]), and *ngoại* [outside] *tỉnh* [prefecture] (outside the prefecture / city). These words have the same word order as the non-Sino Vietnamese expressions such as *trong* (inside), *phòng* (room), and *ngoài* (outside), *tỉnh* (prefecture), *ngoài* (outside), *thành phố* (city), etc. These words have been Vietnamized, so to speak, syntactically and, to some degree, semantically. This paper investigates the syntactic and semantic features, especially their meanings as technical terms, of the Vietnamized two syllable Sino-Vietnamese words, such as *nội thất* (interior [decoration]), and *ngoại tỉnh* (outside the prefecture / city), compared to their correspondent non-Sino expressions *trong nhà* (indoor), and *tỉnh khác* (another prefecture), etc.

キーワード：2音節漢越語名詞，越化，語順，意味の特殊化・専門化，単独で使

Keywords: two syllable Sino-Vietnamese Noun, Vietnamization, word order, semantic specialization, used alone



はじめに

ここで言う「漢越語」(từ Hán Việt, yếu tố Hán Việt) というのは、ベトナム固有の語彙に加えて、中古漢語が体系的に借用されてベトナム語に定着した語彙を指している。

つまり、ベトナム語に定着していながら、音声的には、「漢越の読み方」(cách đọc Hán Việt) というものを有する語彙である。そして、この「漢越の読み方」は、「唐時代の漢語の音韻体系に、具体的には、8、9世紀を含む時期に交州(Giao Châu)で教えられた唐音に源を発している」とされた(Nguyễn Tài Căn 2000:19)。

また、この「漢越の読み方」と「漢越語」との関係については、Nguyễn Tài Căn (2000: 20)では、以下の図が示されている。

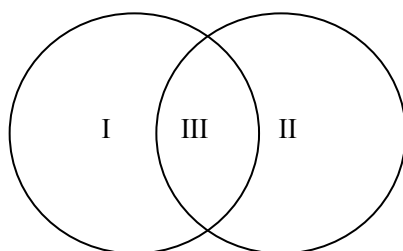


図 1 : 「漢越の読み方」と「漢越語」との関係

このうち、I領域は「漢越の読み方」(cách đọc Hán Việt)で読むことが出来るものの、ベトナム語とは何の関連も無いような要素である。例えば、‘châm’ (怎)、『giá’ (這)、『ma’ (么)などである。II領域は、漢語から借用されていながら、「漢越の読み方」とは直接関係がない要素を指し、3種類に分けられる。‘Mùa’ [務] (季節)¹、『mùi’ [味] (匂い)、『buồng’ [房] (部屋)、『buồm’ [帆]などのように、「漢越の読み方」以前に借用されたケース、『gan’ [肝]、『gần’ [近]、『vốn’ [本]、『ván’ [板]などのように、「漢越の読み方」と同時に、唐時代から借用されたものの、その後、違う経路で変化してきたケース、そして‘mỳ chính’ [味精] (味の素)、『cắc’ [角] (古い貨幣の単位で、1 ドンの 10 分の 1) などのように、漢語(中国語)のある方言を通じて借用されたケースである。そして、III領域は、『tuyết’ [雪]、『học’ [学]、『quốc’ [国]、『gia’ [家]などのように、「漢越の読み方」を通じて借用されたために、「漢越の要素」(yếu tố Hán Việt)と呼ばれている。

るものである (Ibid. 20-21)。本稿では、この「漢越の要素」を一般的な呼び方に従って「漢越語」と呼ぶことにする。

日本語と同様に、ベトナム語でも、漢語起源の「漢越語」の語彙は、相当の割合で使われている。

Phạm Hùng Việt (2018:348)によると、Vietlex (2011)に収録されている 45,850 項目数のうち、単音節語も含めば 16,117 項目が漢越語で、35.15%を占めているという。また、分野別で言えば、漢越語は、文学作品では、14.8%を (Bùi Thị Thanh Lương (2006))、また建設用語では、純越語の構成要素がある語も含めれば 20.24%を (Vũ Thị Thu Huyền (2013))、そして経済用語では、最大の 73.6%を占めている (Lê Thị Thuỳ Vinh (2014))。一方、新聞雑誌という分野では、漢越語は、全体としては、67.7%を (Quách Thị Gám (2014))、そして特定の筆者の作品のレベルでは 51.3%を占めている (Đặng Mỹ Hạnh (2014)) という (いずれも Phạm Hùng Việt (2018:348-351)からの引用)。

無論、漢語起源とはいえ、ベトナム語の中で使われている以上、その語彙の一部になっているため、音声・形態的にも、意味・文法的にも、様々な形で、いわば「越化」されているのが見受けられる。

以下では、1 節で、漢越語の越化に関する従来の研究を紹介し、2 節では 2 音節漢越語名詞を 3 類型に分けた上で、各々の特徴を考察した後、まとめと今後の課題を述べる。

I. 漢越語の越化に関する従来の研究

音声・形態的な越化に関する研究としては、Maspéro (1916)、王力(1948)や Nguyễn Tài Căn (1979)(1987)、Nguyễn Văn Khang (2013)、村上雄太郎&今井昭夫 (2015)などが挙げられる。例えば、王力(1948)では、「印」や「板」や「対」などに対して、それぞれ‘án’、‘bản’、‘đôi’という「漢越語」の読みがあると同時に、‘in’、‘ván’、‘đôi’という「越化漢越語」の読みもあるという。また、Nguyễn Tài Căn (1987:44)では、「遅」や「禍」や「種」に対して、‘tri’、‘hoạ’、‘chủng’が「漢越語」であり、それぞれの「越化漢越語」として‘chày’、‘vạ’、‘giống’があるという。

「漢越語」は、様々な側面において越化することが可能である。例えば、‘các’/‘gác’ [閣] のように、頭子音の部分で越化することもあるほか、‘khuyến’/‘khuyên’ [勸] のように声調の部分で越化することもあり、また、‘cường’/‘gượng’ [強] のように、頭子音の部分も声調の部分も同時に越化することもある。さらに、‘chủng’/‘giống’ [種] のように、頭子音、声調、そして韻母の 3 つ位置で越化することもあり得る (王力 (1948)や

Nguyễn Tài Căn (2000)など)。

一方、‘khuyên’/‘khuyên’ [勸] やの‘đôi’/‘đôi’ [対] のような、声調のみ異なる現象に関しては、村上雄太郎&今井昭夫 (2015:1-9)では、漢越語の単独での用法に伴う声調の転換が取り上げられ、その転換は同じ系列の声調同士への転換であるか、または同じ平仄にならなければならないかという一種の規則性に言及した。「同じ系列の声調同士」というのは、両方とも、同じ「高い系列の声調」(thanh bổng)なのか、あるいは、同じ「低い系列の声調」(thanh trầm)なのかということである²。

「高い系列の声調」と「低い系列の声調」というのは、現代ベトナム語(北部方言)の6声が、伝統的に、以下の表のように、区別されたものである。(表1)

高い系列の声調	a	á	à
低い系列の声調	à	ã	a

表1：現代ベトナム語(北部方言)の六声の分類表

例えば、「用」の‘dùng’/‘dùng’や「為」の‘vi’/‘vi’は、同じ「(伝統的な)低い系列の声調」内の転換であり、そして「試」の‘thi’/‘thi’や「勸」の‘khuyên’/‘khuyên’も同じ「(伝統的な)高い系列の声調」内の転換である。また、「媒」の‘môi’/‘môi’や「研」の‘ngiên’/‘ngiên’は、同じ平声への転換であるとされる (ibid. 7-8)³。

声調のみならず、韻母または頭子音も変わるような場合にも、この声調転換の規則性が見られるとされる。例えば、「代」の‘đai’/‘đoi’や「近」の‘cận’/‘gần’などである (ibid. 8)。

一方、意味的・文法的な越化に関する研究としては、村上雄太郎&今井昭夫(2012)や佐藤章太 (2015)、Lê Xuân Thai (2018)、Nguyễn Hoàng Anh (2018)などが挙げられる。

例えば、村上雄太郎&今井昭夫(2012)は、2音節漢越語の越化現象として、‘mạch văn’ [脈文] , ‘thế công’ [勢攻] や‘ngoại thành’ [外城] , ‘nội thất’ [内室] のような、語順が日本語や漢語(中国語)とは逆になるような組み合わせを取り上げ、前者の‘mạch văn’や‘thế công’という類型は、意味の変化を生じない形で、漢語元来の<修飾要素+主要素>の語順を、ベトナム語の<主要素+修飾要素>の語順に変えた結果だとし、一方、‘ngoại thành’や‘nội thất’という類型は、同じくベトナム語の<主要素+修飾要素>の語順に従って表現された結果だとしながら、意味的には、例えば、‘ngoại thành’と「城外」とは異なる。「城外」とは単に「城壁の外、町の出はずれ、市外」と解釈されている⁴のに対し、‘ngoại thành’の表すのは単

に‘(bên), ngoài thành (phố),’「市外」という意味ではなく, ‘ngoại thành’の表すのは単に‘(bên) ngoài thành (phố)’「市外」という意味ではなく, ‘ngoại thành’とは‘Khu vực bao quanh bên ngoài thành phố, nhưng thuộc về thành phố về mặt hành chính; phân biệt với nội thành. *Đông Anh là một huyện ngoại thành Hà Nội.*’ (市の外環地区だが、行政的には市に属する地区である。例：ドンアインはハノイ市外環地区の1つの区である)と解釈されている⁵。つまり、「城外」と違って, ‘ngoại thành’は、空間的には、市の外にありながら、行政的には市に属するというのである (Ibid. 8)。

また、佐藤章太(2015:257-258)は、‘viêm não’ [炎脳] (←「脳炎」)のように、<主要素+修飾要素>の語順へ変わっている漢越語、すなわち、語順が入れ替わっている漢越語のことを「統語的な越化漢語」と呼んでいる。

このほか、文化受容 (acculturation)という観点から見れば、2音節漢越語の越化を考察する Lê Xuân Thai (2018)は特筆に値するものである。

Lê Xuân Thai (2018)は、ベトナム語へ借用された2音節漢越語を、漢語(中国語)における意味を受け入れつつ新しい意味を創造するという観点から、それぞれの例文を挙げて次のように、5つのケースに分けている(Ibid. 181-196)。

- a. 新しい意味を創造せずに、漢語における意味をそのまま借用するケース
例えば、‘ái quốc’ [愛国]、‘an khang’ [安康]、‘thái độ’ [態度] など。
- b. 漢語における意味を全部受け入れたうえで、新しい意味も作り出すケース
例えば、‘âm đạm’ [黯淡]、‘bảo vệ’ [保衛]、‘cơ cấu’ [機構] など。

‘âm đạm’については、‘nét mặt âm đạm’ (暗い顔つき)のように、「暗くて陰鬱な」という新しい意味が追加されている。また、‘bảo vệ’には、‘bảo vệ luận án’ (博士論文の審査を受ける)のように、「自分の意見を守ったり主張を裏付けたりする」という意味と、「守衛」という意味が新たに追加されている。

- c. 漢語における意味の一部しか受け入れないケース
例えば、‘an ninh’ [安寧]、‘bảo thủ’ [保守] など。

ベトナム語では、‘an ninh’については、「世の中が穏やかで平和な」という意味は受け入れながら、「心安らかな」というもう一つの意味は受け入れない。

また、‘bảo thủ’については、「保守的な」という意味は借用するが、「保守秘密」(秘密を守る) という意味は借用しない。

d. 漢語における意味の一部しか受け入れないが、そのうえで新しい意味を作り出すケース

例えば、‘quá vãng’ [過往] , ‘bảo bối’ [寶貝] 等。

‘quá vãng’ については、「往来する」という意味と「行ったり来たりする、付き合う」という意味は受け入れないが、「過ぎ去る」という意味は受け入れて、さらに「故人である、亡くなった」という意味を作り出す。

e. 漢語における意味を受け入れずに、新しい意味しか表さないケース

例えば、‘bàng hoàng’ [彷徨] , ‘điềm đạm’ [恬淡] など。

‘bàng hoàng’については、「さまよう」という意味はベトナム語には使われず、代わって、「呆然とする」という意味としては使われる (Ibid. 181-196)。

一方、漢越語の複合名詞が越化するという点で、Lê Xuân Thai (2018:173-176)は、上で述べた‘ngoại thành’と同じ性格を持つと考えられる‘nội thành’ [内城] (市内) を含む‘tiền chiến’ [前戦] , ‘ngọc bích’ [玉璧] , ‘ngoại lệ’ [外例] , ‘ngoại khóa’ [外課] , ‘nội thất’ [内室] , ‘súng trường’ [銃長] , ‘trường phòng’ [長房] 等を‘từ ghép Hán Việt Việt hoá’ (越化した漢越語複合名詞) と呼んでいる。

なお、Nguyễn Hoàng Anh (2018:332-334)は、越化した漢越語として、‘sản hậu’ (産後) に対する‘hậu sản’ [後産] や、‘tộc trưởng’ (族長) に対する‘trưởng tộc’ [長族] などと、‘toán học’ (算学) → ‘toán’のような音節の縮小されたものを取り上げ、一方、‘ngoại thành’ [外城] , ‘nội thị’ [内市] , ‘tiền chiến’ [前戦] , ‘trường học’ [場学] , ‘hậu phẫu’ [後剖] , ‘trường phòng’ [長房] などを‘từ ghép lai tạo’ (交配された複合詞) と呼んでいる。

本稿では、「越化した2音節漢越語名詞」という概念を、元来漢語(中国語)における語順とは逆の語順で使用される2音節漢越語名詞に限って用いるため、Lê Xuân Thai (2018:173-176)と Nguyễn Hoàng Anh (2018:332-334)の例として挙げられている‘súng trường’ [銃長] や ‘trường học’ [場学] , ‘trường phòng’ [長房] などは考察する対象外になる。‘súng trường’ [銃長] や ‘trường học’ [場学] , ‘trường phòng’ [長房] などは、いわば「越製漢語」の一種だと

言えよう。

II. 越化した2音節漢越語名詞の3類型

先ず、漢語（中国語）における元々の名詞とは意味が異なるかどうかによって、2音節漢越語名詞を、意味の変化が生じない‘trưởng đoàn’ [長団] や‘viêm não’ [炎腦] のようなケースと、用法が「特殊化」しているといった意味の変化が生じている‘ngoại tỉnh’ [外省] や‘nội thất’ [内室] のようなケースに分けることができるだろう。さらに、前者の2音節漢越語名詞を、逆の語順の組み合わせがあるケースと無いケースに分けることが出来るだろう。

2.1. 意味の変化も生じないし、漢語の語順でも使える類型 I

例えば、次のような名詞である。

trưởng đoàn / đoàn trưởng [団長]

trưởng thôn / thôn trưởng [屯長]

trưởng tổ / tổ trưởng [組長]

trưởng tộc / tộc trưởng [族長]

trưởng trạm / trạm trưởng [站長] など(Nguyễn Như Ý, 1999)。

このうち、‘trưởng đoàn’ [長団] と比べ、‘đoàn trưởng’の方が使用頻度が低く⁶(Vietlex 2011)、逆に、‘tộc trưởng’ と比べ、‘trưởng tộc’ [長族]の方が使用頻度が低い (ibid.)。このことは、‘đoàn’ [団] がいわゆる「純越語」⁷のように単独で使えるのに対し、‘tộc’ [族] は、あくまで、漢語要素として働き、別の漢語要素と組み合わせて使うことが一般的であるということに関係があるようだ。‘trưởng tộc’ に代わって、普通、同じ意味を表す ‘trưởng họ’ が使われる。

ちなみに、同じ ‘trưởng’ [長] という漢語要素だが、<N + trưởng>という組み合わせしか出来ないようなケースもある。例えば、

quốc trưởng [国長]	→ × trưởng quốc ⁸
thị trưởng [市長]	→ × trưởng thị
bộ trưởng [部長] (大臣),	→ × trưởng bộ
hiệu trưởng [校長]	→ × trưởng hiệu
tỉnh trưởng [省長]	→ × trưởng tỉnh
quận trưởng [郡長]	→ × trưởng quận
su trưởng [師長] (su đoàn trưởng [師団長] の略),	→ × trưởng sư
trung đoàn trưởng [中団長]	→ × trưởng trung đoàn
trung đội trưởng [中隊長]	→ × trưởng trung đội

中央省庁や主な公共団体の長や、軍隊の編制上の単位長を表す2音節だけでなく3音節の漢越語名詞の場合には、〈N + trưởng〉という組み合わせしか使われないようである。

ちなみに、‘yếu điểm’ と ‘điểm yếu’ は同じではなく、また ‘cao điểm’ と ‘điểm cao’ も同義語ではない。‘yếu điểm’ が漢越語で「要点」に当たり、一方、‘điểm yếu’ は、非漢越語の要素 ‘yếu’ (弱い) を含み、「弱点」という意味である。また、‘đánh chiếm một cao điểm’ も ‘đánh chiếm một điểm cao’ も、両方とも「ある高地を占領する」ということを表す⁹が、「ラッシュアワー」を表すのに、‘giờ cao điểm’ は使えても、‘giờ điểm cao’ は使えない。

ここで注目すべきは、‘trưởng’ が漢越語の要素だけでなく、非漢越語の要素とも組み合わせることができるという現象であろう。例として、‘cụm trưởng’ [隊長] や ‘nhóm trưởng’ [チーム長] のような組み合わせである。

この‘trưởng’の振る舞いや働きは、基本的には、‘đinh’ (釘) と組み合わせさせた ‘đinh tặc’ (釘を踏みパンクをするようにさせ、儲かる悪者) や ‘cát’ (砂) と組み合わせさせた ‘cát tặc’ (川の砂泥棒) における ‘tặc’ [賊]¹⁰ や ‘nữ nhà văn’ (女性作家) のように ‘nhà văn’ (作家) に前接する ‘nữ’ と同様であると言える¹¹。

逆に、次の ‘viêm não’ [炎脳] (脳炎)、のように、〈主要素 + 修飾要素〉という語順の組み合わせしかないケースもある。

2.2. 意味の変化は生じないが、漢語の語順では使えない類型 II

この場合、漢語の語順とは逆の語順でしか使われないし、前の構成要素は純越語と同じよ

うに、単独で使うことが出来る。

例えば、‘viêm não’ [炎脳] とは言うが、‘não viêm’ [脳炎] とは言わないし、‘viêm phổi’ (肺炎) や ‘viêm họng’ (喉炎症) などのように、‘viêm’ が主要素として ‘phổi’ (肺)¹² や ‘họng’ (喉) のような純越語か、越化した漢越語と結合することができる。

この場合、‘viêm’ は、‘viêm gan’ (肝炎)、‘viêm ruột’ (腸炎)、‘viêm phế quản’ (気管支炎)、‘viêm khớp cấp tính’ (急性関節炎) などのように、純越語のように、単独で使える要素になっている。

ちなみに、「～炎」をベトナム語に置き換えると、‘viêm～’のほかに、‘sung～’ や ‘đau～’ になる場合もある。例えば、「肺炎」は ‘viêm phổi’ の他に、‘sung phổi’ とも言うし、「虫垂炎」は ‘viêm ruột thừa’ の他に、‘đau ruột thừa’ ともなるのである。

2.3. 意味・用法が「特殊化」している類型 III

この場合でも、2音節漢越語名詞は、元来の漢語における語順とは逆の語順である<主要素+修飾要素>の組み合わせでしか使えないし、用法も、いわば「特殊化」や「専門化」(semantic specialization) を受けるようなものである。

例えば、次のような場合である。

nội thất [内室] / ngoại thất [外室]

nội thành [内城] / ngoại thành [外城]

nội thị [内市] / ngoại thị [外市]

nội ô [内塙] / ngoại ô [外塙]

nội hạt [内轄] / ngoại hạt [外轄]

構成要素としては、‘nội’ [内] / ‘ngoại’ [外] と ‘thất’ [室] や ‘tỉnh’ [省] (県) を含んでいるものの、‘nội thất’ や ‘ngoại tỉnh’ は、単純に、漢語の「室内」や「県外・市外」とは対応しない。一般的には、日本語の「室内」や「県外・市外」と比べ、ベトナム語の ‘nội thất’ や ‘ngoại tỉnh’ の方が使い方に制限を受けている。

例えば、「室内」と ‘nội thất’ の場合については、‘nội thất’ という語は、「室内装飾」や「室内設計」を除いて、「室内」というより、次の(1)と(2)のように「インテリア」に対応する。

つまり、単なる空間というよりも、その空間の設計・装飾を指すのである。例えば、

- (1) Nội thất phòng khách : リビングインテリア
- (2) Nội thất phòng ngủ : 寝室のインテリア

従って、「室内装飾」「室内設計」に対しては、「trang trí nội thất」、「thiết kế nội thất」のように、「室内」に対応する表現として「nội thất」を使うことができるが、次のような場合においては、「室内」に対応する表現としては、「nội thất」を使うことができない。

- (3) 室内競技 : những môn thi đấu trong nhà → × những môn thi đấu nội thất
- (4) 室内プール : hồ bơi trong nhà → × hồ bơi nội thất

基本的には、日本語の「室内」が純越要素の組み合わせである「trong nhà」に対応して、部屋や家の中という空間を指すのに対し、ベトナム語の「nội thất」は、その空間の設計・装飾を指すのである。換言すれば、「nội thất」[内室]は「インテリア」に対応しており、「thiết kế nội thất」は「インテリアデザイン」に、「trang trí nội thất」は「インテリアの装飾」に対応するのである。

次に、「ngoại tỉnh」[外省]と「県外・市外」の場合を見よう。例えば、(5)と(6)と(7)のようには、「ngoại tỉnh」も「県外・市外」も使えるが、(8)と(9)のようには、「県外・市外に住む」に対応して、「sống ở ngoại tỉnh」は使えない。ベトナム語では、「sống ở tỉnh khác」(県外に住む)や「sống ở thành phố khác」(市外に住む)というように言わなければならない。

- (5) Bến xe ngoại tỉnh : 県外・市外バスターミナル
- (6) Lao động ngoại tỉnh : 県外労働者
- (7) Sinh viên ngoại tỉnh : 県外の大学生
- (8) 県外に住む : Sống ở tỉnh khác → × Sống ở ngoại tỉnh
- (9) 市外に住む : Sống ở thành phố khác

つまり、「bến xe ngoại tỉnh」(県外・市外バスターミナル) や 「lao động ngoại tỉnh」(県外労働

者) や ‘sinh viên ngoại tỉnh’ (県外の大学生) などのように、物事の特徴・性質を示す場合なら、‘ngoại tỉnh’ も「県外・市外」と同様に、使えるが、ある人が県外に住んだりする場所を表す場合には、「県外・市外」は使えるのに対し、‘ngoại tỉnh’ は使えないのである¹³。

また、‘ngoại thành’ と「城外」との違いについても、冒頭で述べたように、「城外」とは単に「城壁の外、町の出はずれ、市外」と解釈されているのに対し、‘ngoại thành’ の表すのは単に ‘(bên) ngoài thành (phố)’ 「市外」という意味ではなく、‘ngoại thành’ とは ‘Khu vực bao quanh bên ngoài thành phố, nhưng thuộc về thành phố về mặt hành chính; phân biệt với nội thành. Đông Anh là một huyện ngoại thành Hà Nội.’ (市の外環地区だが、行政的には市に属する地区である。例：ドンアインはハノイ市外環地区の1つの区である) と解釈されている。「城外」と違って、‘ngoại thành’ は、「空間的」というよりも、「行政的な」意味を与えられていると言えよう。

このように見てくると、‘nội thất’ や ‘ngoại tỉnh’、‘ngoại thành’ のケースは、‘trưởng đoàn’ [団長] や ‘viêm não’ [炎脳] のケースと違って、越化の現象は、単に <主要素+修飾要素> という語順に現れるにとどまらず、意味・用法的にも、物事の特徴づけという「特殊化・専門化」にも現れると分かる。

Ⅲ. まとめと今後の課題

以上、漢語(中国語)における元々の語順とは逆の語順で組み合わさった2音節漢越語名詞の越化の諸相を考察してきた。

述べたことをまとめると、次のようになるだろう。

以上、漢語(中国語)における元々の語順とは逆の語順で組み合わさった2音節漢越語名詞の越化の諸相を考察してきた。

述べたことをまとめると、次のようになるだろう。

もともと漢語にある名詞とは意味が異なるかどうかによって、2音節漢越語名詞を3類型に分けておいた。意味の変化も生じないし、漢語の語順でも使える類型Ⅰと、意味の変化は生じないが、漢語の語順では使えない類型Ⅱと、意味・用法が「特殊化」している類型Ⅲである。

類型Ⅰに関しては、漢語の語順でも使えるとはいうものの、例えば、‘trưởng đoàn / đoàn trưởng’ や ‘trưởng tộc / tộc trưởng’ は全く同じように使うことが可能だというわけではない。

‘trưởng đoàn’ [長団] と比べ、‘đoàn trưởng’ の方が使用頻度が低く (Vietlex 2011)、逆に、‘tộc trưởng’ と比べ、‘trưởng tộc’ [長族] の方が使用頻度が低い (Ibid.)。このこと

は、‘đoàn’ [団] が、‘đoàn tàu’ (列車) や ‘đi thành đoàn’ (列をなして歩く) のように、単独で使えるのに対し、‘tộc’ [族] は、あくまで、漢語要素として働き、別の漢語要素と組み合わせて使うことが一般的であるということに関係があるようだ。‘trưởng tộc’ に代わって、普通、同じ意味を表す ‘trưởng họ’ が使われる。

また、類型Ⅱに関しては、例えば、‘viêm não’ 中の ‘viêm’ は、類型Ⅰの ‘trưởng’ [長] と違って、‘viêm họng’ (喉炎症) や ‘viêm khớp cấp tính’ (急性関節炎) に示すように、純越語のように、単独で使える要素になっている。

そして、類型Ⅲに関しては、‘nội thất’ [内室] は単に「室内」というよりも、‘thiết kế nội thất’ (インテリアデザイン) や、‘trang trí nội thất’ (インテリアの装飾) のように、「インテリア」に対応しており、また、‘ngoại tỉnh’ [外省] や ‘ngoại thành’ [外城] も、単に「ある空間」の意味というよりも、「物事の特徴づけ」や「行政的な」意味を与えられており、いわば「特殊化・専門化」していると言えよう。

今後の課題として、漢語 (中国語) には存在しないような ‘trường học’ [場学] (学校), ‘trưởng phòng’ [長房] (室長), ‘súng trường’ [銃長] (ライフル), ‘ngoại tình’ [外情] (浮気) のような 2 音節漢越語名詞の用法上の特徴について探してみたい。

注

- ¹ [~] 中にあるのは、すぐ前にあるベトナム語の漢字表記である。また、(～)中にあるのは、日本語における意味と違う場合の日本語訳である。
- ² この「同じ系列の声調同士への転換」は、漢越語のみならず、非漢越語にも見られる。例えば、‘quảng’ (投げる) → ‘quảng’ (投げ捨てる) や ‘đã’ (既に等) → ‘đã’ (‘đã’のバリエントで、詩や歌に使われるもの) (Lê Trung Hoa (1999:219))。また、同じ系列の声調に属するという規則は、‘vất vả’ (苦勞が多い) や ‘vật vã’ (苦痛に) のた打ち回る) などの疊語 (từ láy) の構成要素間にも見られる。
- ³ Ngoại lệ : ‘lai’ như trong ‘vãng lai’ (往来) có âm Hán Việt Việt hoá tương ứng là ‘lai’.
- ⁴ 倉石武二郎著『中国語辞典』岩波書店、1983,第19刷。
- ⁵ Vietlex *Từ Điển Tiếng Việt*, Đà Nẵng 出版社, 2011.
- ⁶ しかし、‘đoàn’ [団] と同じように、「同じ目的を持つ人の集まり」や「ある目的のために組織された人の集団」(北原, 2010) を表す ‘đội’ [隊] の場合は、やや異なる。一般的には、‘đội trưởng’ [隊長] が使われるのである。
- ⁷ ここでいう「純越語」とは、非漢越語であり、ベトナム語の固有語を指す。
- ⁸ ×印は、その使い方が不可能であることを示す。
- ⁹ Hoàng Phê (1995)。
- ¹⁰ ‘đình tặc’や‘cát tặc’の文法的な振る舞いについては Hoàng Dũng (2014) を参照されたい。
- ¹¹ ‘nữ nhà văn’のような使い方については、村上雄太郎・今井昭夫 (2018) を参照されたい。
- ¹² ‘phổi’は、‘phé’ [肺] という漢越語が越化したものであるとされる。
- ¹³ 詳しくは、村上雄太郎&今井昭夫 (2013:31-32) を参照されたい。

参考文献

- Bùi Thị Thanh Lương. 2006. *Từ ngữ mới tiếng Việt (trên tư liệu giai đoạn từ năm 1986 đến 2006)*, Luận án TS ngữ văn, Viện Ngôn ngữ học, Hà Nội.
- Chu Bích Thu (編). 2002. *Từ Điển Từ Mới Tiếng Việt*, Viện Ngôn ngữ học, Nxb. Tp. HCM.
- Đặng Mỹ Hạnh. 2014. *Đặc điểm vốn từ trong các tác phẩm của nhà báo Hữu Thọ*, Luận án tiến sĩ, Học viện Khoa học xã hội, Hà Nội.
- Đào Duy Anh (編). 1932. *Hán Việt Từ Điển*(漢越詞典), Quan Hải Tùng Thư, Huế (1957, Trường Thi, Saigon).
- Hầu Hàn Giang, Mạch Vĩ Lương (編), *Từ Điển Hán Việt*(漢越詞典), 商务印书馆, 1994
- Hoàng Dũng. *Mấy nhận xét về ứng xử ngữ pháp của yếu tố Hán Việt và hệ quả của nó về ngữ*

- nghĩa và ngữ âm. *Tạp chí Nghiên cứu và Phát triển*. No. 3-4 (110-111) , 2014. (pp.143-150) ,
- Hoàng Phê. 1995. *Từ Điển Tiếng Việt*, Nxb. Đà Nẵng & Trung tâm Từ điển học.
- Kỳ Quảng Muu. 2007. Căn cứ để người Việt tạo ra từ ghép Hán Việt mới. *Ngôn Ngữ* . No. 7, Hà Nội.
- La Văn Thanh. 2011. Một vài nhận xét về tổ hợp song tiết Hán-Việt Việt tạo trong tiếng Việt hiện đại, *Ngôn Ngữ*, No. 7.
- Lê Thị Thuý Vinh. 2014. Vận động tạo từ, tạo nghĩa của từ ngữ kinh tế trong tiếng Việt hiện đại, Luận án TS, Trường Đại học Sư phạm Hà Nội.
- Lê Trung Hoa. 1999. Tìm nguồn gốc một số từ ngữ tiếng Việt qua các hiện tượng biến đổi ngữ âm, in Trung tâm Khoa học Xã hội và Nhân văn quốc gia (編) , *Những Vấn Đề Văn Hoá, Văn Học & Ngôn Ngữ Học*, Nxb. Khoa học xã hội, Hà Nội.
- Lê Xuân Thại. 2010. Tìm hiểu nghĩa của yếu tố Hán-Việt trong các từ ‘chuẩn bị’, ‘dur luận’, ‘địa dư’, ‘khô sở’, ‘nap thái’, ‘vu quy’ ..., *Ngôn Ngữ*, No. 6.
- _____. 2018. Từ ghép Hán Việt : Tiếp nhận và sáng tạo, in Phạm Hùng Việt, Lê Xuân Thại, Lý Toàn Thắng, Nguyễn Hoàng Anh, Trịnh Thị Hà, Nguyễn Thị Tân, Nguyễn Thị Huyền, Dương Thị Thu Trà *Từ Ngữ Hán Việt - Tiếp Nhận & Sáng Tạo*, Nxb. Khoa Học Xã Hội.
- Maspéro, Henry. 1916. Quelques mots Annamites d'origine Chinoise, *BEFEO*, 16.
- Nguyễn Bạt Tụy. 1953. ‘Khéo’ phải do ‘xảo’ mà ra không ? , *Việt Nam Giáo Khoa Tập San* No. 1, Sài Gòn
- Nguyễn Hoàng Anh. 2018. Giá trị phong cách của từ ngữ Hán Việt, in Phạm Hùng Việt, Lê Xuân Thại, Lý Toàn Thắng, Nguyễn Hoàng Anh, Trịnh Thị Hà, Nguyễn Thị Tân, Nguyễn Thị Huyền, Dương Thị Thu Trà *Từ Ngữ Hán Việt - Tiếp Nhận & Sáng Tạo*, Nxb. Khoa Học Xã Hội.
- Nguyễn Ngọc Trâm. 2000. Từ Hán Việt trong sự phát triển từ vựng tiếng Việt giai đoạn hiện nay, *Ngôn Ngữ*. No. 5.
- Nguyễn Như Ý (編) , *Đại Từ Điển Tiếng Việt*, Nxb. Văn Hoá Thông Tin, Hà Nội.
- Nguyễn Tài Cần. (2000/1979) . *Nguồn gốc và quá trình hình thành cách đọc Hán Việt*, Nxb ĐHQG Hà Nội.
- Nguyễn Văn Khang. 2013. *Từ ngoại lai trong tiếng Việt*, Nxb. Tổng hợp Tp. HCM.

- _____. 2018. Vấn đề Hán Việt qua tiếp xúc song ngữ Hán-Việt, in Đinh Văn Đức (編), Trần Trí Dõi, Vũ Đức Nghiệu, Nguyễn Văn Khang, Lê Quang Thiêm, Đinh Văn Đức *Tiếng Việt Lịch Sử Trước Thế Kỷ XX Những vấn đề quan yếu*(Tái bản lần thứ nhất), Nxb. Đại Học Quốc Gia Hà Nội, 2018.
- Phạm Hùng Việt. 2017. Trở lại vấn đề lượng từ ngữ Hán Việt trong tiếng Việt. (2017/8/12 <https://vandoanviet.blogspot.jp/> 最終閲覧日 2017/9/26),
- _____. 2018. Việc phản ánh từ ngữ Hán Việt trong từ điển giải thích tiếng Việt, in Phạm Hùng Việt, Lê Xuân Thai, Lý Toàn Thắng, Nguyễn Hoàng Anh, Trịnh Thị Hà, Nguyễn Thị Tân, Nguyễn Thị Huyền, Dương Thị Thu Trà *Từ Ngữ Hán Việt - Tiếp Nhận & Sáng Tạo*, Nxb. Khoa Học Xã Hội.
- Phan Văn Các. 1994. *Từ điển từ Hán Việt*, Hà Nội.
- Quách Thị Gấm. 2014. Nghiên cứu thuật ngữ báo chí tiếng Việt, Luận án TS ngữ văn, Học viện Khoa học xã hội, Hà Nội.
- Thiều Chửu. 1942. *Hán Việt Tự Điển*(漢越字典), Đuốc Tuệ, Hà Nội.
- Vietlex. 2011. *Từ Điển Tiếng Việt*, Trung Tâm Từ Điển Học, Nxb Đà Nẵng.
- Vũ Thị Thu Huyền. 2013. Thuật ngữ khoa học kỹ thuật xây dựng trong tiếng Việt. Luận án TS ngữ văn, Học viện Khoa học xã hội, Hà Nội.
- 王力 (Li WANG). 1948. 「漢越語研究」, *Lingnan Journal* 『嶺南學報』, 第九卷第一期.
- 王立达. 1958. 「现代汉语中从日语借来的词彙」, 『中国語文』 2月号.
- 北原保雄 (編). 2010. 『明鏡国語辞典』 第2版, 大修館書店.
- 倉石武四郎著『中国語辞典』 岩波書店, 1983. 第19刷
- ゲン・タイ・カン. [Nguyễn Tài Cẩn] (川本邦衛訳). 1987. 「漢字文化とベトナム語—現代ベトナム語における漢字起源の要素」, 橋本萬太郎・鈴木孝夫・山田尚勇編 『漢字民族の決断』 大修館書店.
- 佐藤章太. 2015. 「ベトナム語母語話者における漢語由来語彙と固有語彙の区別」, 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部言語学研究室『東京大学言語学論集』, 第36号.
- ファム・ヴァン・ホアイ(岩月純一訳). 2011. 「ベトナム語における近代漢語とその起源」, 『日本語学』 Vol. 30-8, 明治書院.
- 三根谷徹. 1972. 『越南漢字音の研究』 東洋文庫.

- 村上雄太郎・今井昭夫. 2010. 「現代ベトナム語における漢越語の研究 (1), ベトナムへの和製漢語の伝播状況」『東京外大東南アジア学』第 15 巻, 東京外国語大学.
- _____. 2012. 「現代ベトナム語における漢越語の研究 (3), 日本語の場合とは並び方が逆になる 2 音節漢越語」『東京外大東南アジア学』第 17 巻, 東京外国語大学.
- _____. 2013. 「現代ベトナム語における漢越語の研究 (4), ベトナム語の文法的特徴を持つ漢語要素」『東京外大東南アジア学』第 18 巻, 東京外国語大学.
- _____. 2014. 「現代ベトナム語における漢越語の研究 (5), 「越製漢語」の構成パターンについて」『東京外大東南アジア学』第 19 巻, 東京外国語大学.
- _____. 2015. 「現代ベトナム語における漢越語の研究 (6), 日本人学習者から見た漢越語の声調とその使用に関する諸問題」『東京外大東南アジア学』第 20 巻, 東京外国語大学.
- _____. 2018. 「現代ベトナム語における漢越語の研究 (9), 非漢越語の名詞に前接する用法について」『東京外大東南アジア学』第 23 巻, 東京外国語大学.